

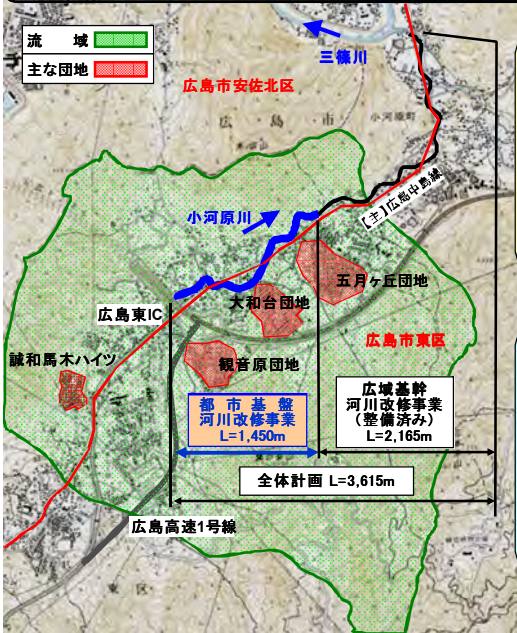
河川事業 再評価

再評価対象事業 位置図



一級河川小河原川 都市基盤河川改修事業

事業の概要 (概要図)



- 事業箇所
東区福田六丁目～同五丁目
- 事業内容
 - ・事業予定期間：平成9～29年度
 - ・全体事業費：29億9,400万円
 - ・全体計画延長：1,450m
 - ・流域面積：7.25km²
 - ・計画流量：140～100m³/sec
 - ・治水安全度：1/30年
- 地域開発の状況
 - ・昭和40年代～
(主)広島中島線沿線の丘陵地で
団地開発が進行
 - ・昭和62年
山陽自動車道広島東ICの供用開始
 - ・平成18年
広島高速1号線が広島東ICまで延伸
→ 市中心部へのアクセスが向上
- ⇒流域周辺の市街化

● 事業の概要 (事業の目的)

■流域周辺は、山陽自動車道、広島高速1号線等の道路網の整備などにより市街化

→ 雨水の流出量が増大し、流下能力が不足

■河川断面が狭小で蛇行しているため、

豪雨による溢水や災害が発生

→ 早急な流下能力の向上が望まれている

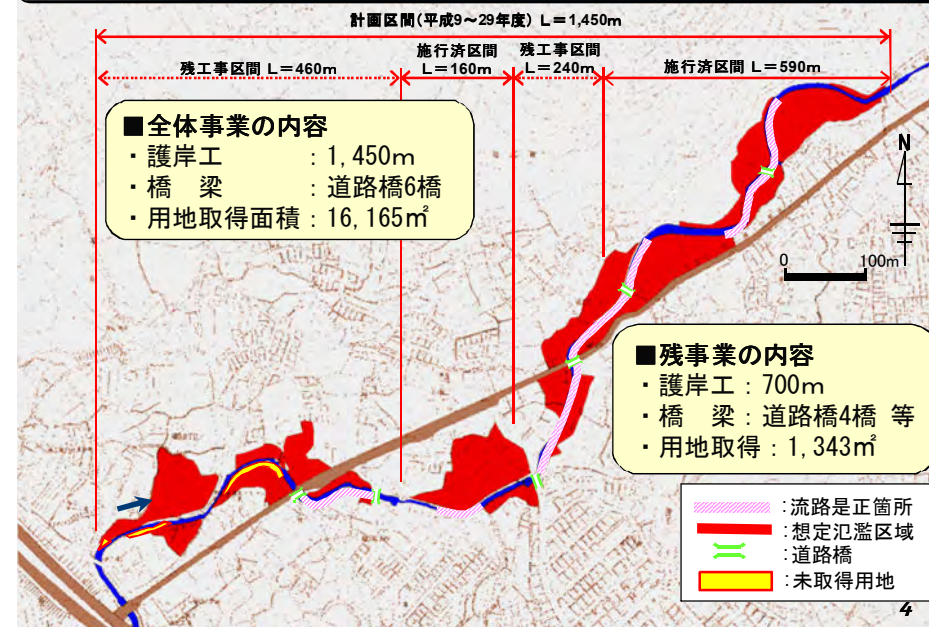
事業の目的

洪水氾濫等の被害軽減を図る

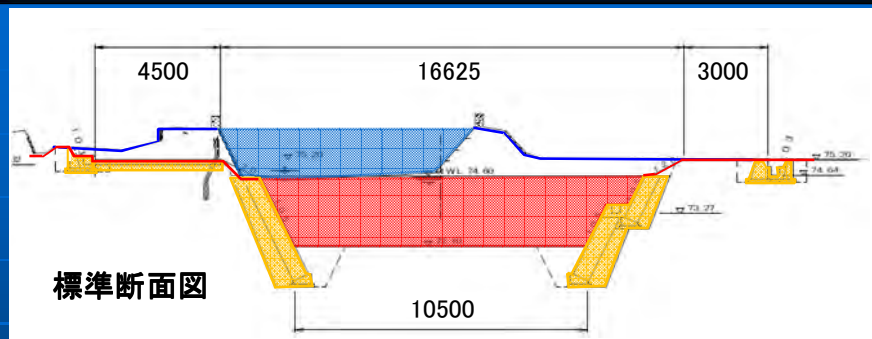
→ 河積の拡大及び流路の是正等を行う

3

● 事業の概要 (事業の詳細内容)



● 事業の概要 (改修標準断面図)



施工済区間

未施工区間

5

● 事業の概要 (予定事業期間及び事業費)

	当初計画 (平成9年度)	前回再評価時点 (平成20年度)	現在 (今回再評価時点)
事業化年度	平成9年度	—	—
予定期間	平成9~19年度	平成9~29年度	平成9~29年度
全体事業費	21億9,500万円	29億9,400万円	29億9,400万円
全体計画延長	1,450m	1,450m	1,450m
事業進捗率	—	50.0%	70.5%

6

● 事業を巡る社会情勢等の変化

- 平成20年度再評価後の5年間において、特筆すべき社会情勢等の変化は見られない
- 参考として、現在の諸状況を示す

7

● 事業を巡る社会情勢等の変化（事業目的に関する諸状況）

■ 災害発生時の影響

- ・ 浸水戸数：21戸（想定氾濫区域内戸数）
- ・ 浸水面積：5.6ha（想定氾濫面積）
- ・ 重要な公共施設等：主要地方道広島中島線
- ・ 災害時要援護者利用施設：特別養護老人ホーム1箇所
- ・ その他：教会1箇所

■ 過去の災害実績

- ・ 被害頻度：平成5年8月, 平成7年7月
- ・ 最大浸水面積：0.1ha
（平成5年8月, 平成7年7月）



8

● 事業を巡る社会情勢等の変化（地域状況）

想定氾濫区域内の資産状況

	ブロック 面積 (m ²)	人口 (人)	世帯数 (世帯)	従業 者数 (人)	農漁 家数 (人)	延床 面積 (m ²)	水田 面積 (a)	畑 面積 (a)
H20	54,022	75	17	142	6	2,691	248.9	99.14
H25	55,851	79	30	75	3	3,558	172	47

9

● 事業を巡る社会情勢等の変化（地域状況）

地域の協力体制等

- 地域住民の協力を得られ、順調な事業進捗が見込まれる

関連事業との整合

- 本事業区間下流から三篠川合流点までの2,165mは、広島県が広域基幹河川改修事業として完成済

10

● 事業を巡る社会情勢等の変化（前回再評価の内容と対応状況）

平成20年度再評価の内容

■ 対応方針

- ・ 事業継続

■ 対応の根拠

- ・ 整備による浸水被害の低減が図られる
- ・ 順調な事業進捗が見込まれる
- ・ 費用便益比(B/C)が1.0を上回る

■ 審議結果

- ・ 市の対応方針を妥当と認める

この5年間の対応状況

- 本体工事及び用地取得を実施

11

● 事業の投資効果（費用対効果分析）

年平均被害軽減期待額		3.2億円
便益	■ 便益	58.6億円 (7)
	■ 残存価値	1.3億円 (イ)
	■ 総便益 (B)	59.8億円 (7)+(イ)
現在価値化した金額		
全体事業費		29.9億円
費用	■ 建設費	29.3億円 (ウ)
	■ 維持管理費	2.8億円 (エ)
	■ 総費用 (C)	32.1億円 (ウ)+(エ)
現在価値化した金額		
■ 費用便益比 (B/C)		1.9
■ 純現在価値 (B-C)		27.8億円

12

● 事業の投資効果（費用対効果分析・前回再評価と比較）

	平成20年再評価時点	今回再評価時点
便益	58.5億円	58.6億円
残存価値	0.9億円	1.3億円
総便益(B)	59.4億円	59.8億円
建設費	27.6億円	29.3億円
維持管理費	2.2億円	2.8億円
総費用(C)	29.8億円	32.1億円
費用便益比(B/C)	2.0	1.9
純現在価値(B-C)	29.6億円	27.8億円

13

● 事業の投資効果（感度分析）

感度分析

残事業費と残事業期間がそれぞれ10%・1年増減したケースを想定し、費用便益比(B/C)を試算

【分析結果】	費用便益比 (B/C)		
	-10% -1年	±0% ±0年	+10% +1年
残事業費	1.9 (1.92)	1.9 (1.87)	1.8 (1.82)
残事業期間	1.9 (1.94)		1.8 (1.81)

※「公共事業評価の費用便益分析に関する技術指針（共通編）」（国土交通省 平成20年6月）に基づき分析を実施

14

● 事業の投資効果（その他事業の投資効果）

その他事業の投資効果

定性的評価

- 河道の整備により、浸水被害が軽減されるため、
地域住民に「安全・安心」を与えることができる
- 景観やアクセスが良好となるため、
水辺に対する親しみが湧き、
 - ・ イベント等の新たな利用の創出による地域の活性化
 - ・ 地域住民・ボランティア団体等の維持管理への参画が期待できる

15

● 事業の進捗状況

事業の経過

- | | |
|----------|-----------------|
| ■ 平成9年度 | 事業採択 |
| ■ 平成10年度 | 用地取得に着手 |
| ■ 平成15年度 | 事業再評価（河川整備計画策定） |
| ■ 平成19年度 | 工事着手 |
| ■ 平成20年度 | 事業再評価 |

事業の進捗率

区分	事業費	用地	工事
施行済 (平成24年度末)	21億1,200万円	14,763㎡	750m
進捗率	70.5%	91.3%	51.7%

残事業の内容

- 護岸工事 700m, 道路橋架替工事 4橋, 用地取得等

16

● 事業の進捗の見込み

事業が長期化している理由

- 広島県施行の下流側の河川改修事業の完了に合わせて
工事に着手したため

今後の事業進捗の見通し

- 計画的事業執行に努め、平成29年度の完成を目指す

17

● コスト縮減や代替案立案等の可能性

コスト縮減の可能性

- 掘削残土の有効活用
 - ・ 現場発生石の河床材としての活用
 - ・ 周辺の公共事業への流用
- 既製コンクリート製品導入による工期短縮

代替案立案等の可能性

- 当河川では、河道改修が現実的な整備手法であるため、
代替案はない

18

● 対応方針(案)

対応方針 (案)

事業継続

対応方針 (案) の理由と今後の方針

流域内での市街化の進展に伴う雨水の流出増に対応し、浸水被害から家屋、事業所等を守るため、**早急に流下能力の向上を図る必要がある**ことから、引き続き事業を実施し、平成29年度の事業完成を目指す

19

一級河川小河原川 都市基盤河川改修事業

再評価

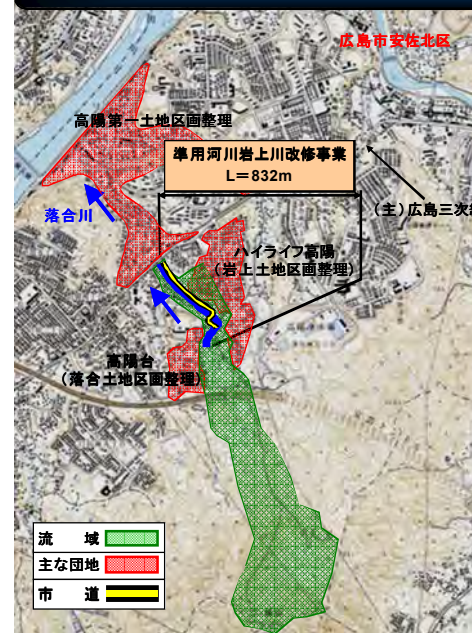
終了

20

準用河川岩上川改修事業

1

● 事業の概要 (概要図)



■事業箇所

安佐北区落合南三丁目～同五丁目

■事業内容

- ・事業予定期間：平成元～29年度
- ・全体事業費：9億3,600万円
- ・全体計画延長：832m
- ・流域面積：1.20km²
- ・計画流量：29～25m³/sec
- ・治水安全度：1/50年

■地域開発の状況

- 昭和50年代後半からの
- ・主要地方道広島三次線の整備
 - ・ハイライフ高陽（岩上土地区画整理）
 - ・高陽台（落合土地区画整理）
 - ・高陽第一土地区画整理等の開発

⇒流域周辺が市街化

2